

これからの、100年。  
変わりゆく勇氣、変わらない想い。



仙台支店/仙台市宮城野区扇町7丁目6-30 ☎022-254-0701(代)

2022  
8月22日  
月曜日

# 建設新聞

発行所 建設新聞社  
本社 仙台市青葉区春日町7-5 TEL022(22)14601  
青森支局 青森市古川1丁目21-11 TEL017(72)8631  
盛岡支局 盛岡市菜園1丁目3-6 TEL019(65)18045  
秋田支局 秋田市山王4丁目3-10 TEL018(86)6921  
山形支局 山形市松波1丁目10-16 TEL023(64)12800  
福島支局 福島市宮下町17-20 TEL024(534)0138  
東京支局 東京都江東区豊洲1-3-1 TEL03(5547)1367



## 活性化へ再エネ地産地消 温泉街で電気バス、小水力など 大高建設(富山県) 大橋 聡司社長



大高建設(富山県黒部市、大橋聡司社長)は、黒部川流域を舞台に土木・建築を幅広く手がけ、「黒部川の防人」としての強みをより固めつつ、再生可能エネルギーを切り口とした事業に先駆的に取り組んでいる。地元の宇奈月温泉は、観光客の減少や自動車排気ガスなどの問題を抱える一方、豊富な水や地熱、森林の地域資源に恵まれている。2009年から産学官連携

「でんき宇奈月」を立ち上げ、活動を開始。13年に一般社団法人化した。代表理事を務める大橋社長は、「自然エネルギーと低炭素ガスによる公共交通事業を導入し、先進的なエコ温泉リゾートとして観光客を誘致するとともに、エネルギーの地産地消による自立した地域づくりを推進している」と強調。温泉街の魅力創出や環境改善を図り、さらに再生エネルギーによる活性化、共生型社会を目指す。低炭素バスを開発し、3台のバスを温泉街周回と宇奈月ダム湖畔往復の2コースで運行。温泉街のシンボリックな乗り物として、「時速19km以下の低速で安全・安心に走行する設計思想は、今日のグリーンスマートフォン時代の基準となっている」と指摘する。

## 再エネ活用による共生型社会づくり

温泉街の水路を利用して14年から「小水力発電」を行っており、「電力2・2キロワット」の小水力発電設備を供給し、街灯にも活用している」とし、再生エネルギーの活用を推進している。黒部川高水敷の資源化による脱炭素化とレジリエンス向上に着目し、過剰な伐採を抑制する。河川樹木を伐採しているが、これを廃棄物ではなく資源化して利用するもの。大学との共同研究段階だが、ICT技術を活用して効率化を図っており、「今後の具体的な成果に期待を寄せる」。

## 評価対象期間を明示 CCUSの経審加 points

国土交通省は、建設キャリアアップシステム(CCUS)を活用して担い手の育成・確保に取り組んでいる企業を経営事項審査で評価するため、8月15日以降に始まる事業年度1年間の評価対象期間を明示する。評価対象となるのは、林福連携の地域内エコシステム構築、宇奈月温泉の各種施設に新ボイラーの導入を進めること。このほか、黒部川高水敷の資源化による脱炭素化とレジリエンス向上に着目し、過剰な伐採を抑制する。河川樹木を伐採しているが、これを廃棄物ではなく資源化して利用するもの。大学との共同研究段階だが、ICT技術を活用して効率化を図っており、「今後の具体的な成果に期待を寄せる」。

## ICT技術をフル活用し工期短縮へ 東北工業大学 実験・教育棟新築工事

八木山キャンパス内の4施設を一体的に建て替える「実験・教育棟」新築工事。ICT技術を活用し、工期短縮を実現。在学生への講義やリキウムとして現場を公開し、学生の学びの場として活用された。施工を担当する清水建設・仙建工業・阿部和工務店JVは、設計は佐藤総合計画が作成。施工は清水建設・仙建工業・阿部和工務店JVが担当している。施設は「実験・教育棟」として、棟ごとに分かれて分設している。材料構造系や電気電子・情報通信・物理系などの実験室を配置するほか、講義室を配置している。内部は「見えて触れて学ぶ」建物とすることで、構造的な見学が可能。学生が学んだ2021年4月、取材した8月上旬の進捗率は97%に達し内装工事などを進めており、9月竣工へ大詰めを迎えている。建設地は大学敷地内での工事となり、災害防止対策と騒音対策を徹底している。現場を指揮する清水建設の結城健一所長は「付近

は住宅地でもあるため、町内会に毎月の工事内容や騒音作業を周知し、住民の方々の理解と協力を得て工事を進めた」と話す。また、学生たちの動線確保のためにはもちろん、入学式など大学行事を優先し、騒音や振動などの支障がある際は、作業時間を調整し、第三者災害防止を図り、これまで全工期無事故・無災害を達成している。



施工=清水建設・仙建工業・阿部和工務店JV



現場見学会の様子

生で建築素材に触れられる施設構造となっている。また、4階まで階段状に吹き抜けとなる交流スペース「コモンサクル」を設け、異なる学術分野の実験に携わる学生同士との交流を促す。1階と2階の一部をガラス張りにし、実験器具などを見せる外観が特徴的だ。着工は2021年4月、取材した8月上旬の進捗率は97%に達し内装工事などを進めており、9月竣工へ大詰めを迎えている。建設地は大学敷地内での工事となり、災害防止対策と騒音対策を徹底している。現場を指揮する清水建設の結城健一所長は「付近

は住宅地でもあるため、町内会に毎月の工事内容や騒音作業を周知し、住民の方々の理解と協力を得て工事を進めた」と話す。また、学生たちの動線確保のためにはもちろん、入学式など大学行事を優先し、騒音や振動などの支障がある際は、作業時間を調整し、第三者災害防止を図り、これまで全工期無事故・無災害を達成している。

建設管理センター1級土木施工管理技士(第2次)検定対策講座 定員50人で受付中

Construction advertisement for INOAC featuring fireproofing products like Saramaks CW. Includes text: 燃え広がらないから安心! 着火せず、炭化. 断熱性 0.022w/mk, 難燃性 26%. 建設管理センター 東日本事業部. 0120-14-5353. URL: http://www.ecc-jp.com